

山 行 報 告

★武尊山(9月6日)

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)
会員外(健常者1名)

昨晚は、武尊牧場キャンプ場のログハウスに泊まり、とても盛り上がった。本当は、土曜と日曜の天気を入れ替えて欲しかったが、それはかなわず、外は深い霧に包まれている。それでも、夜半の雨は上がっていたので、助かる。

ログハウスを出て、日の出前の暗く深い霧の中を登山道目指して歩いて行く。幅広い山道を歩いていくと、木道も出てきた。登山道は緩やかなアップダウンを繰り返す。

花咲湿原への分岐を過ぎ、緩やかに登っていくと武尊避難小屋に着く。詰めて入れば板の間に7人から8人は横になれるだろうか？



武尊牧場避難小屋に到着

次は田代湿原への分岐となる高山平を通過する。この頃から登山道は、頻繁に田んぼ状態のどろどろ道が現れるようになる。登山道を先行していく1羽の鳥がいる。腹の部分が黄色なのだが、霧のベール包まれてははっきり分からず、

こんなところにいるわけないと思いながらも、キセキレイではないかと思っていた。帰って写真を見たらルリビタキだった。3分ほど、登山道を先導してくれた。



蜘蛛の糸に付いた水滴

オヤマリンドウが咲き、ナナカマドは赤い実を付けている。タケシマランもみずみずしい赤い実を付けている。

時々、左側(南側)の樹林が切れているが、今日は全く展望がない。白い霧が見られるだけだ。時々雨も降るようになってきた。



鎖場を登る

ようやく鎖とロープの垂れ下がる岩場に到着する。ホールドもスタンスもあるが、濡れているので慎重に登る。最初の岩場を登ると、さ

らに次の小さな岩場があり、最後にもう一つ岩場があった。

ここを過ぎ、さらに20分ほどで中ノ岳直下の分岐に到着。前武尊方面から来ると、ここで合流となる。少し行くと、笹清水。標識には「菩薩界の水」と書かれていた。そして三ツ池が次々に現れる。さらにトラバース気味に進み、ザレ場や岩場を慎重に通過すると、ようやく日本武尊の銅像が見えてきた。ここで記念写真を撮る。

山頂は、ここから15分ほどのところにあった。ここまで数人しか会わなかったが、休憩していると武尊神社方面から数人が登ってきた。少し早い我々は、ここで昼食とする。展望図を見ると、360度、谷川岳方面から富士山まで見られるが、今日は霧に包まれて全く見えず。またいつか来る機会があるだろうか？



武尊山山頂にて

山頂を後にして、剣ヶ峰山方面へ下山にかかる。最初から急坂の連続となる。Fさんをサポートしていたが、Fさんが足を滑らせて転ぶと、私も転んだ足に足を取られてFさんのの上に乗ってしまう。そんなことが何度かあった。

それでも、慎重に下って、剣ヶ峰山への登りにかかる。岩場を登ると、剣ヶ峰山に到着するが、両側が切り立って非常に狭い山頂だ。ここでは休憩できないので、さらに少し進む。私は少し腹を下したので、みんなに先に行ってもらおう。ちょうどベンチがある所で、みんなは休憩していた。

ここからしばらく楽な道だったが、途中から急な木の階段になる。幅が狭く、滑りやすい丸太なので、慎重に下って行く。ベンチと標識があったところを西峰と思ったが、西峰はまだ先だった。



イフインテン

長い下りに飽きてくるが、まだまだ下りは続く。予約していたタクシー会社に30分ほど遅れることを伝える。左に川場スキー場のリフトなどが時々見える。緩やかなアップダウンを何度か繰り返し、ようやく高手山に到着。この頃には、雨が降り続くようになってきた。ここからコースタイムは40分となっていたが、20分ほどで旧武尊高原川場キャンプ場に到着。さらにコンクリートの道を下ると広い駐車場に到着する。タクシーはキャンプ場まで上がってくれたのだが、17時20分で道路を封鎖されるということで駐車場に下りていたらしい。泥に汚れた雨具を脱ぎ、タクシーに乗り込む。長い下りで痛くなった膝を使わないで済むと思うとホッとする。下界が近づくにつれて、雨脚が強くなっていった。 記：網干

コースタイム

武尊牧場(5:00)…花咲湿原分岐(6:00-6:15)
…武尊避難小屋(6:40-6:55)…中ノ岳(9:20-9:30)…武尊山(10:20-10:50)…剣ヶ峰山(12:10)…西峰(13:10)…高手山(15:10)…
旧武尊高原川場キャンプ場下の駐車場(15:35)

★登山知識及び技術向上コース（聖岳・赤石岳縦走）（9月20日～23日）

参加者 会員(健常者7名)

☆9月20日

到着予定よりも早く、夜行バスで畑薙第一ダムに到着する。樫島ロッジまでの臨時送迎バスが出て、予定よりも1時間半ほど早く聖岳登山口に着くことができた。

山から下りてきた頃はぼろぼろになっているかも知れないので、登山口で使用前の写真をパチリ。

今日は、標高差1100mほどの登り。まずは急登から始まる。そして聖東尾根の左側をトラバースするようになる。所々細い道があり、慎重に通過する。

聖沢吊橋は、有名なので大きな吊橋かと思ったが、意外に短く、低いところに付けられている。吊橋が苦手なCさんも、これなら問題ないとすいすい通過する。

ここから乗越までが今日一番の急登。みんな頑張って登っていく。ペースも順調だ。乗越らしいところに着くがもう少し先だと思い、尾根の右側をトラバースしていくが、なかなか現れない。さっきの乗越らしいところが乗越だったようだ。



聖沢登山道から聖岳を見上げる

次は滝見台があるはずだが、昭文社の地図も何年版かによって位置が違っている。私の持っているのは1998年版。一番古いが、ここ

思われるところから、奥聖ノ滝沢にかかる連瀑がとてもよく見えた。

続いて水場と思われる沢を横切る。木の根に躓いてCさんが転んだが、怪我などがなく息を整えてそのまま登っていく。小尾根を回り込んでいくと、滝がよく見える岩がある。そこで休んでいたパーティーは、ここが滝見台だという。確かに、他の昭文社の地図ではこの付近に滝見台と書かれている。しかし、連瀑は見えず、何ともはてなだった。

さらに尾根をトラバースし、ようやく聖沢橋に到着する。ここからは沢沿いの緩やかな斜面を登るようになる。登っていくと、多くのテントが張られたその先に聖平小屋が見えてきた。小屋に着く頃は、すっかり重い雲が垂れ込めていた。夜半には雨も降っていた。夜行バスでしっかり眠れなかった疲れもあり、早々に寝袋にくるまった。



聖平小屋

☆9月21日

今日の朝食と昼食は、弁当を頼んでいた。一つはおいなりさん3つ、もう一つは大きなおにぎり一つ。朝食はおいなりを食べて出発する。計画では5時出発予定だったが、少しでも早めに出たいと思い、4時25分出発。周囲は霧に包まれて視界は悪い。真っ暗な中、ヘッドランプを頼りに登りはじめる。

薊畑への分岐付近から明るくなり始める。そして時折霧が切れるときもある。天気回復を祈って登っていく。



朝焼けと富士山

霧が切れ、雲の間から聖岳や後ろに上河内岳も見られるようになってきた。日の出前だが、周囲はすっかり明るい。尾根をトラバース気味に行くところで、樹林が切れて東の空がよく見えるところに出た。何とそこには、シルエットの富士山とその上空を飾るあかね雲が見られた。この世のものと思えないほどのすばらしい光景に出会えた。5分ほどの間、何枚も写真を撮っていたが、次第に色合いが変わってきた。自然が作り出した最高芸術。たった5分程度しか見ることができず、富士山が見えるところにいた人でなければ出会えなかった光景。私たちはこんな低いところから出会うことができ、非常に幸運だった。

ダケカンバの林を登り、森林限界に出ると、はるかに広がる雲海とその上に浮かぶ上河内岳がすばらしい。小聖岳に着くと、聖岳が正面に見える。富士山もとてもよく見える。聖岳の左には兎岳も見えている。しかし、とても寒いので、雨具を着ることにする。



小聖岳の直下を登る

聖岳に向かう尾根の左手は、遠山川の原頭部。

岩の間から最初の1滴と思われる水がしみ出していた。ジグザグの登山道を頑張って登っていく。振り返ると雲海の上に越えてきた小聖岳が低く見える。登っている聖岳の山頂方面は、真っ青な空の下、多くの登山者がジグザグに登っている。聖平小屋から750mほどの登りも、ようやく傾斜が緩くなり、聖岳の山頂に到着した。今まで見えなかった赤石岳方面がすっきりと見えるようになる。赤石岳のすぐ後ろには荒川三山が佇み、その左奥には塩見岳が頭だけ見せている。さらにその左奥には仙丈岳が見えている。北アルプスや中央アルプスもよく見える。富士山は雲海の上に、きれいに裾野を伸ばしている。



聖岳山頂にて

今日の行程は聖岳に登っても、まだ3分の1程度。まだいくつもの山を越えていかなければならないので、先を急ぐ。



聖岳山頂付近から見た赤石岳

急な下りが続く。左側の聖の大崩壊地に絶対に落ちてはいけぬ。岩場は特に慎重に行く。右手後ろには赤石岳がよく見えている。コルに着くと、タカネマツムシソウがまだ咲いていた。

兎岳へは標高差200mの登り。紅葉した木々の中を登っていく。振り返ると聖岳がすばらしい。遠山川側からわき出た雲が稜線の風にあおられて山旗雲のようにになっている。



ナナカマドの紅葉と聖岳

ようやく兎岳避難小屋への分岐に着き、さらに兎岳山頂へと登っていく。この頃には雲に包まれるようになっていた。山頂に着くと、20日の朝、東海フォレストのバスで隣に座っていた女性2人組が逆コースから登ってきた。昨日は赤石岳避難小屋に泊まったとのこと。



聖岳を背に兎岳を目指す

兎岳山頂で昼食タイムとする。聖平小屋の大きなおにぎりには、おかかや梅干しなど、3種類の具が並んで入っていた。

兎岳から150mほど下り、小兎岳へは手前の小ピークを越えて緩やかに登っていく。昨晚、聖平小屋で出会った男性グループと抜きつ抜かれつして歩く。声を聞くと新潟弁の人がいる。後で聞いたら三条の人だった。私が生まれた出雲崎の天領の里も知っていた。

小兎岳を過ぎると紅葉のきれいなところを通過する。周囲が霧に包まれて視界が悪くなっ

たおかげで、4羽のライチョウに出会うことができた。しばらく近くにいたが、離れていったので出発したら、雷鳥たちは私たちの少し下まで飛んできた。



兎岳にて

中盛丸山に到着すると、KさんからCさんと一緒に早めに行って、小屋の受付をして欲しいと頼まれる。危険なところはないと思われるので、大沢岳に登らず、トラバースルート歩いて百間洞山ノ家に向かうことにする。トラバースルートの山腹や対岸の山腹も紅葉がなかなか美しい。聖岳もよく見え、荒川三山が見えるところもあった。

小屋で受付に並んでいると、Kさんが最初に到着。H君は大沢岳を登って来たらしい。他の3人は、ゆっくりとトラバースを楽しんで最後に到着。8人入るのがやつの場所に11人泊まることになっていたが、スタッフが8人に変更してくれた。狭いながらも何とか足を伸ばして寝ることができた。夕食前は、三条から来た人が所属するグループと交流して楽しむことができた。



ナナカマドの実

☆9月22日

今日は、赤石岳まで650mほどの登り、そして赤石岳から樫島まで2000mの下りとなる。体力よりも膝が持つかどうか勝負となりそう。

早朝の4時。空には満天の星空が広がる。天の川もよく見える。小屋からヘッドランプを付けて登りはじめる。途中で若いH君に先頭を歩いてもらう。暗い夜道を先頭で歩くことは、ルートファインディングの勉強になるだろうと思う。



私は一番後ろで、時々ヘッドランプの明かりを消して星空を楽しむ。山の形も見えている。今日は全く月が出ていない。そのため、星たちのきらめきは一層すばらしい。

ルートは次第に森林限界を越えるようになる。東の空がうっすら明るくなり、星たちの輝きが消えていく。代わりに東の空に明けの明星が輝くようになる。

百間平を歩いていると、荒川三山や塩見岳、仙丈岳が見えるようになる。そして聖岳や荒川三山に朝日が当たるようになる。しかし、我々が歩いている登山道は、赤石岳の影になって日が当たらない。いくら歩いても体は温まらない。

百間平から赤石岳につながる尾根を緩やかに登る。そして赤石岳をトラバースしながら斜上するガレ場の登山道を登るようになる。それでもまだ、日は当たらない。それでも急坂を登るので、だんだん暑くなってくる。そして、登り着いたコル状のところに出ると、まぶしく暖

かい太陽がさんさんと輝いていた。お釜状になった山頂の反対側には赤石避難小屋が見える。さすがに暑くなったので、着ていた雨具を脱ぐ。



赤石岳の山頂からは、富士山がよく見え、北の方には、手前の小赤石岳と荒川三山、その奥には塩見岳の山頂部や間ノ岳、農鳥岳が見え、さらにその奥に甲斐駒ヶ岳、仙丈岳が見えている。北岳は大きな間ノ岳の後ろに隠れて見えない。北アルプスや乗鞍岳、中央アルプス、御嶽山、恵那山も見え、昨日歩いてきた中盛丸山、兎岳、聖岳もよく見える。さらにその南部に連なる上河内岳、光岳も見えている。360度の展望を楽しむ。



やや遅れ気味のため、山頂で写真を撮って、早めに下山にかかることにする。山頂から小赤石岳方面に下る。小ピークから赤石沢北沢の原頭部を下る。かなり急なため、滑らないように慎重に下る。富士見平にトラバースするところまでなかなか着かない。富士見平より少し低いところまで下り、そこから緩やかに登ることになる。北沢原頭部の紅葉はすばらしい。赤や黄

色に色づいた木々が楽しませてくれる。



赤石山脈の盟主・赤石岳にて

富士見平へのトラバース道は、今回のコースで一番危険なところ。数年前、ここを全盲の人たちをサポートして通過したのだが、サポートした人たちの技量に今更ながら感服する。

富士見平に着くと、すばらしい風景が広がっている。今下りてきた赤石岳は間近に迫り、右手には荒川三山が山頂部を雲に隠しながらもよく見えている。聖岳も見え、富士山もよく見えている。また、この周辺の紅葉はすばらしい。ナナカマドが真っ赤に色づいている。この3日間で色合いを深めたのかも知れない。



ナナカマドの紅葉と千枚岳

早い昼食を摂り、下山にかかる。予定より1時間近く遅れているため、今晚泊まる予定の二軒小屋はあきらめて、榎島ロッジに泊まることにした。

赤石小屋に10半頃到着。ここからさらに長い下りが始まる。今まで遅れていたNさんが、急に元気になってぐんぐん下って行く。少し間が空いたが、後ろもしっかりと付いていく。途中で静岡県警の人たちと行き違った。北沢原頭

で怪我をした人が出て救助要請があったので、向かっているとのこと。上空にはヘリの音もしていた。



真っ赤に色づいたナナカマドに囲まれて

ぐんぐん下ってようやく大井川の林道が見えてきた。しかし、見えてからも長かった。榎島に15時30分に到着。二軒小屋に行く送迎バスの時間に間に合った。バスは、乗るのが私たちだけだったので、予定よりも早く出発してくれた。

二軒小屋に来たのは37年前。そのときは転付峠を越えてきた。テントに泊まり、千枚岳に登り、荒川小屋でテント泊し、最後に赤石岳を往復し、小渋川を渡渉して下山した。今回は二軒小屋に泊まるが、当時の二軒小屋周辺の様子は全く覚えていない。

二軒小屋は、きれいなロッジだった。シェフの料理もすばらしく、小屋の中の雰囲気もまたすばらしい。風呂に入って3日間の汚れを落とし、さっぱりする。疲れた体では夜更かしすることもできず、早々に床についた。



二軒小屋の室内

☆9月23日

早朝、小屋の周りを散歩し、転付峠への登り口を確認する。何も覚えていないが、やはりなつかしい思い出がよみがえる。登山を始めて2年目の冬に荒川三山と赤石岳の登頂を目指しての下見だった。10月10日前後、山頂付近の紅葉がすばらしかったことを覚えている。

大井川にかかる滝を見物し、オヒョウの大木も見に行ってきた。東海フォレストのバスに乗り、1時間以上揺られて畑薙第一ダムに着く。待合所でお昼を食べ、毎日あるペン号のバスに乗り、ここからさらに2時間、バスはひたすら山中を走る。南アルプスの山深さを強く実感するひとときだった。高速バスは予定よりも早く新宿に着いた。

次回、南アルプスに行くときは、どんなコースを使うだろうか？ 安全最優先で、楽しんでもらえるルートを考えたい。 記：網干



《参加者の感想》

聖岳、赤石岳は憧れの山のひとつ。そこへ行くチャンス到来。この日が来るまで、折れない心を少しずつ、いろんな人の力や言葉を借りて行ってこれました。晴天に恵まれたこと、力強いリーダーに恵まれたこと、一緒に歩いてくれる仲間にも恵まれたことに感謝してます。

この登山で単独でテントで光岳～聖岳、赤石岳、これから荒川三山へいくという、彼女の目はきらきらしてました。ひとりで歩いている女性に軽量化に頭を凝らしたわたしが追いつき、話をすることができました。わたしが仲間と来たことを告げると彼女は羨ましい、この山に一

緒にいてくれる友はいなかった。だからひとりでできたといってました。山での一期一会。素晴らしい出会いでした。

夜ベッドランプをつけながら歩くのはなかなかずっとトンネルのようでしたが、山の朝は早い。あっという間にやってくる。日本の最高峰、富士山お目見え。赤々と凜と聳え立っている。富士山が近い。力強く感じて、しがたいわたしに力を与えてくれる。森林の中にはきのこが季節を思わせる。いろとりどりのきのこがニョキニョキ、ひよこっと現れている。生きてるんだね、君たちも。

噂の吊り橋もなんとまあ、人の知恵というのは素晴らしい。おかげさまで先に進むことができる。山小屋のスタッフの方達はみな若い。山男、山女が山でのお仕事を楽しんでいる。わたしももう少し若かったら・・・

その山その山に思い出がまた増えた。厳しい山道もあったが、次から次へと景色を変えていく様にわたしは夢中になって歩いていた気がします。うまく言葉に伝えられません。山に酔ってる、そんな感じです。

下山してすぐに電話したのは母。健康に育ててくれてありがとう。敬老の日になにもしてあげられなくて、ごめんねといったら、言葉だけで充分ありがとうといわれてしまった。それを伝えなかった。

霜がおりている木々をみて、もうあとひとつきもしたら、雪が降り、人を寄せない厳しい冬がくるのでしょうか。 記：S.Kさん

コースタイム

9/20 聖岳登山口(7:40)・・・吊り橋(9:10-9:20)・・・聖沢橋(14:20)・・・聖平小屋(15:00)

9/21 聖平小屋(4:25)・・・小聖岳(6:05-6:20)・・・聖岳(7:35-8:00)・・・兎岳(10:20-10:50)・・・中盛丸山(13:00-13:05)・・・百間洞山ノ家(14:00)

9/22 百間洞山ノ家(4:00)…百間平(5:15-5:25)…赤石岳(8:05-8:20)…富士見平(10:30-11:00)…赤石小屋

(11:25-11:35)…榎島(15:30)―二軒小屋

★古賀志山(9月27日)

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)
会員外(健常者1名)

夏から秋にかけて派手な高山が続いたが、今回はぐっと地味に、低山の日帰り登山となった。人数も少なく、静かに山を楽しむ一日となった。

山に向かう電車の中では、雨が降っているところもあったが、新鹿沼駅からは雨に降られることはなかった。最後には日も差してきていた。

新鹿沼駅からタクシーで森林公園まで行く。途中、運転手さんから、この川が氾濫して、この付近の家はみんな床上浸水したと教えられた。茨城県の常総市の水害はよく知っていたが、鹿沼市も大きな被害を受けていたことを、今回初めて知ることができた。

森林公園で自己紹介をする。今回はSさんが初参加だ。公園には、今回予定している北コースは、先日の大雨で登山道が崩れて通行できないと表示されている。しかし、野菜などを売っている地元の人に聞くと、すでに多くの登山者が登っているので、道はできていると教えてもらう。



水害の傷跡が至る所にあった

予定通りに北コースに向かう。車道を歩いて

いると、舗装の縁の土がえぐれている。さらに細野ダム分岐に架かっていた橋は、完全に崩れていて、橋の形になっていなかった。ここから広場までの登山道も所々、大きくえぐられたり、多くの樹木がなぎ倒されて、押し流されて溜まっていた。とにかく、自然の力の大きさに敬服する。



広い山道を歩く

水場で休憩し、広場でも休憩する。そして富士見峠への山道を登る。ツリフネソウやキバナアキギリ、オクモミジハグマなどが咲いている。富士見峠の直下には大きな岩があった。この山は、岩登りのグレンデとして有名な岩の山。今回のコース以外のコースは、どこも鎖が連続するスリリングなコースだ。我々は最も安全なコースに行く。



ツリフネソウ

富士見峠は、名前とは全く違って、富士山は

見えないし、周囲の木を全て切っても見えないと思われた。どんな理由で命名したのだろうか？

富士見峠からは岩混じりの急坂となる。久しぶりの登山となるS Iさんは苦しそうに登ってくる。登り着いたところが東稜分岐。見晴らしの良い東稜見晴台で昼食にする。東側の関東平野と北側の展望が得られる。栃木県はさすがにゴルフ場が多い。近くに3つ見えた。



東稜見晴台にて

昼食後は、古賀志山の山頂に行き集合写真を撮る。そして、御岳山への分岐に到着。S Iさんはここで待つという。5人で御岳山を往復することにする。ここは、今回一番の岩場。赤い鳥居を過ぎると、尾根上の岩場コースかそれを避けるトラバース道かを選ぶところになるが、今回はトラバース道を往復することにする。



古賀志山山頂にて

尾根コースと合流すると、はしがが現れる。M君は途中からはしごに乗るのをいやがり、はしごの下から忠実にはしごを登る。その後の岩場もクリアし、御岳山山頂に到着する。ここは、今日一番見晴らしが良いところ。天気もかなり

回復し、日も差してきた。

下山は、一番注意が必要だ。M君に腰を落として手をついて下りるように言う。ちゃんと指示に従って下りてくる。鎖場を通過し、はしごもしっかり下ってきた。トラバース道もしっかりこなして、S Iさんが待つ分岐に到着する。



岩場を下るM君

分岐からの下りは階段だった。M君は、Nさんにつかまって下りようとしているが、Nさんの負担が大きすぎるため、前に来てもらう。車道に出ると、M君は、タクシーに乗りたいたいという。しかしタクシーはここまでは入れないし、呼んでもいない。M君は不満で、しばらく荒れていた。それでも、赤川ダムに見える展望台に着く頃には落ち着いていた。



ヤマボウシの実

この付近には、アケビがなっていた。途中、ヤマボウシの実もたくさんなっていて、さすが実りの秋であることを実感する。森林公園の駐車場に着き、タクシーを待つ。M君に「楽しかった？」と聞くと「楽しかった」と応える。その後は、Nさんにずっと甘えているM君だった。

記：網干

《参加者の感想》

先日の豪雨の爪痕を目の当たりにして、山の怖さを感じましたが、その登山道に行く人達をみていたら、人間のちっぽけさを愛おしく思いました。一方で、小さな花や、虫の音は、災害を感じさせなくて…

写真のアップが楽しみです。久しぶりの参加でしたが、やはり、山はいいです。

記：F.Iさん

★榎寄山(10月10日)

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)

いつもながら山に行く前は天気予報とにらめっこ。曇りの予報だった週間予報は、3日ほど前には曇り後雨に、ところが前日になると晴れ時々曇りで降水確率10%。これは好天が期待できるなど当日を迎えると、曇り空。すぐに晴れるだろうと思ったが、1日中高曇りだった。

武蔵五日市から出るバスは、追加便もあり4台が数馬に向かう。バス会社は、全員が座って行けるように増発してくれている様子。後ろに並んだ私たちも、全員座っていくことができた。

浅間尾根登山口で下車。前に並んでいた7人がバス停で歩く準備中だった。いつものM君の帽子放り投げ挨拶が始まる。今日も楽しそうだ。

自己紹介の後、登り始める。最初は少し急坂が続く。植林帯の中を登っていくが、M君はマイペース。前に行ったり後ろに行ったりしている。休憩の要求があっても休憩しないと、葛藤が始まる。でも、あきらめて登り始める。決して見捨てるようなことはないけど、動かないときはおいていたり、先頭を歩いてもらったり、あの手この手を使って登ってってもらおう。私を含めてみんなおじさんおばさん、ザックを引っ張られると体が持たない。「それはダメだよ」

コースタイム

森林公園駐車場(10:25)…水場(10:55-11:05)…富士見峠(11:55-12:05)…東稜見晴台(12:20-12:50)…古賀志山(13:00-13:05)…御岳山(13:25-13:30)…南ルート分岐(13:40-13:45)…南ルート入口(14:10)…展望台(14:50-15:00)…森林公園駐車場(15:15)

といいながら、自分の力で登ってもらう。



大羽根山にて

急坂も大羽根山まで。大羽根山は北側の展望が開けていて、御前山や大岳山、六ッ石山などが見える。ここからは緩やかな登りとなる。



数馬峠にて

空の高さが低くなってくると笹尾根に出る。笹ヶタワノ峰で休憩しようと思ったが、ここは山頂を巻く形で登山道ができていた。ただ、昭文社の少し古い地図では笹ヶタワノ峰は数馬峠の先の1157m地点になっている。私の2014年版では1121mが峰になって

いる。

そんな違いを確認しながら歩いて行くと、南側が開けたところに出る。ここが数馬峠だ。高曇りだが、富士山がよく見える。ここで昼食タイムとする。今回が2回目の参加となる全盲のSさんもしっかり登ってきた。



大岳山がよく見える

数馬峠から笹尾根をじわりじわりと登っていく。紅葉にはまだまだ早い、木々の葉は夏の力強い緑は影を潜め、黄色みを帯びた柔らかな緑に変わってきている。山々の自然は、一步一步秋を深めていっている。

西原峠を過ぎると、檜寄山への最後の登りになる。とは言っても、ほんの少しの登りで山頂到着。6～7人ほどの男性グループが昼食中だった。私たちは集合写真を撮った後休憩する。少し薄くなったけど、まだ富士山が見えている。



檜寄山山頂にて

山頂からは西原峠まで戻って、下りにかかる。所々、片側が切れた細い道もあるので、慎重に

下る。途中で数馬の西側に下るコースと仲ノ平に下るコースの分岐があるはずだが、それが見当たらず、標識は仲ノ平への下山路を示している。

段差の大きな階段が続き、膝への負担が強くなる。今回が2回目の参加となるSさんは「飛び降りるように降りる感じだ」と言いながらも順調に下りている。

長い下りもようやく民家が見えてきた。鹿除けの網などを過ぎると、民家に出て、あとは車道を歩くようになる。かつてキャンプや忘年会をした仲ノ平キャンプ場は今はなくなっている。バス路線に出て、時間があるので数馬まで歩いた。

記：網干

《参加者の感想》

薄曇りの一日でしたが、自然林が多い登山道は柔らかな空気に包まれていて、とても気持ち良かったです。木々の紅葉はまだでしたが、りんどうが咲いていたり、キノコがたくさん生えていて、集落に下りれば、コスモスが咲いていて…

秋なんだなあ、と体全体で感じる事が出来ました。

気付いたり、気付かされたり、アルプ仲間と行くからこそ、より一層、感じられたと思います(*^_^*)

息子の「山登り、楽しかった」と言う一言、私も「そうだね、楽しかったね」と返しました。多くの会話は無くとも共感出来ます。やっぱり山はいいです。

記：F.Iさん

コースタイム

浅間尾根登山口(10:10)…大羽根山(11:30-11:40)…数馬峠(12:20-12:55)…檜寄山(13:45-14:00)…数馬(15:40)

★西御荷鉾山(10月31日)

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)

今回は、新町駅からバスで法久まで入り、そこから石神峠経由で東御荷鉾山に登り、西御荷鉾山に縦走する予定だったが、参加人数が少ないこともあり、レンタカーで行きましょうという提案が持ち上がった。参加者全員の了解を得て、レンタカーで行くことになる。

462号線から御荷鉾スーパー林道に入るところは、道幅が狭く急坂で対向車が来たらたいへんなところだ。無事にそこを通過し、みかぼ高原荘の先にある駐車場に車を置く。ここは西御荷鉾山への登山口となっている。当初の計画よりはずっと楽なコースに変更することになる。

駐車場から幅の広い道を緩やかに登っていく。大文字の切り払い付近に来ると、階段になる。ススキの斜面で展望が開けてくる。父不見山方面かと思ったが、見えていたのは城峰山方面のようだ。車酔いしたY君が少し調子が悪く遅れ気味だ。しかし頑張って登ってくる。



西御荷鉾山山頂にて

駐車場から30分で西御荷鉾山に到着。ここは展望が良い。榛名山が見え、その左には妙義山、浅間山、その右に四阿山と鼻曲山、浅間隠山が見える。南側に目を転じると先ほどの城峰山方面と二子山方面が見える。ここで少し早い昼食タイムとする。調子が悪かったY君も元気になった。M君は、走り回るほど元気いっぱい。

昼食後は、投石峠に向けて下る。南側は植林だが、北側は紅葉した木々が美しい。正面には

これから登る東御荷鉾山が急角度でせり上がっている。かなり登るようだ。



東御荷鉾山への登りから見た西御荷鉾山

投石峠に到着し、東御荷鉾山の登山口を探す。少し尾根の右側に行ったところから登山道が付いている。かなりの急斜面だ。ずるっと滑りそうな登山道をY君を下から押し上げながら登っていく。ジグザグに登り、さらにトラバースしていく。足下が切れているので、注意が必要だ。特に下りは要注意。しかし、周囲は紅葉が美しい。紅葉したカエデの向こうには登って来た西御荷鉾山が見えている。



美しいカエデの紅葉

慎重にトラバースし、さらに山腹をトラバース気味に登っていくと、歩きやすい広い尾根に上がる。少し岩場もあるが、こちらでも展望の良い東御荷鉾山に到着する。今まで曇り空だったが、次第に天気が良くなってきた。ちょうどこの山頂が雲の切れ目で、関東側が曇り、上越側が晴れている。しかし、関東側も次第に晴れてきている。

東御荷鉾山の山頂では、Iさんがお湯を沸かしてコーヒーを振る舞ってくださる。



東御荷鉾山山頂にて

今日はハロウィーンだ。Y君もカボチャの仮面を持ってきていたが、どうも車においてきたらしい。山頂では、市原から来たという方から写真を撮っていただいた。



西御荷鉾山から見た榛名山

下山は、最後の箇所を慎重にくだらなければならぬ。Kさんの適切なサポートもあり、M君もしっかり下っている。全員、無事に投石峠に到着。ここから車道を歩いて駐車場に戻ることになる。駐車場の手前で、西御荷鉾山山頂直下の大の字が見えた。この大の字は送り火ではないようだ。昔、麓の村で疫病が流行し、西御荷鉾山の不動尊に平癒祈願したところ疫病が治まったことから、大願成就を記念してかり出したらしい。

Kさん運転の車に乗り込み、途中、白寿の湯

★蕨山(11月29日)

参加者 会員(障害者4名、健常者6名)

で暖まって帰途についた。

記：網干



真っ赤なカエデの紅葉

《参加者の感想》

うす曇りの空の下、針葉樹と広葉樹の分け目を行く登山道…木洩れ日が差した時は、紅葉した木々が息をのむほど美しい、秋の山でした。

周りの山より、ちょっと標高が高いため、行程変更のお陰で楽をしつつも(^_^;)優越感が得られた頂上からは、群馬の山々が一望で気分が高揚しました。ホームページアップを楽しみにしています。

今回の山行も「楽しかった!」と息子。一番良かったのは「温泉!」との事…登山の後には確かに最高です♪

息子にとっては、長い1日でしたので、帰りは疲れがみられましたが、翌朝はすっきりしていました。今回も「山はいいなあ、来てよかったなあ」と思いました(o^o^o)

記：F.Iさん

コースタイム

駐車場(11:05)…西御荷鉾山(11:35-12:20)
…投石峠(12:50-12:55)…東御荷鉾山
(13:55-14:25)…駐車場(15:30)

11月は雨で中止の計画が2回あったために、今回の蕨山が最初で最後になってしまった。参加人数が少なく、サポート不足であったが、みなさまの協力のおかげで、視覚障害者の人た

ちは全員参加することができました。協力していただいたみなさまに感謝です。

天気予報は当日が近づくとつれて良くなってきた。朝は快晴で午後から雲が出てきたものの、風もなく小春日和の一日を楽しむことができた。

飯能駅からバスに乗り終点の名郷で下車。自己紹介の後、歩き始める。橋を渡って林道をしばらく歩く。日が当たらず冷え冷えとしている。林道から山道に入り、沢を渡って尾根に取り付く。かなりの急登になるが、この付近はまだまだ序の口。



ロープの張られた岩場を登る

尾根に上がると北西側に石灰石の採掘場が見えてくる。少し上がると、木々の間から武川岳が見えてくる。伊豆ヶ岳も見えるようになった。



蕨山山頂にて

時々細くなる尾根を登っていくと、岩場が現れた。ロープも張られている。この岩のある急坂がこのコースの危険地帯。慎重にサポートしながら通過する。急坂を登ったところが山頂かと思うが、山頂はまだ先だ。こんなことを3回

ほど繰り返し、ようやく山頂の一角に出る。山頂標識は、一番標高の高いところより少し低い展望の良いところにある。

山頂からは、雪を抱いた日光の山々が見え、近くには武甲山や武川岳も見える。南側には丹沢の大山や丹沢山方面が見えている。都心の高層ビル群やスカイツリーも見えていた。小春日和の山頂は、日が当たり、防寒着を着なくても寒くない。ゆっくりお昼を食べることができた。



M君がFさんを初サポート

山頂で集合写真を撮った後は、さわらびの湯方面へ下山にかかる。今回のコース選定は、安全を考慮して、急斜面を登って緩やかな斜面を下る計画とした。ただ、下りも所々岩場があるので注意を要する。

標高が下がるにつれ、所々きれいに紅葉したカエデやツツジが見られる。大ヨケノ頭が近づくと右の山腹から林道が近づいてくる。そして林道を横切って少し登り、中登坂を過ぎる。快晴だった空には黒い雲も出始めた。日が陰るとやはり寒い。



まだ紅葉していたカエデ

金毘羅山の山腹を巻き、金比羅神社跡に到着。

Ｙさんから椿の花が咲いていると教えていただいた。右手に時々名栗湖が見える。名栗湖側と反対側の山腹を下ると、家の屋根が見えてくる。さわらびの湯のバス停に到着。今日は湯に入らず、予定より速いバスで帰ることにする。名郷からバスに乗ってきた人は４人。全員座っ

て飯能駅まで行くことができた。 記：網干

コースタイム

名郷(9:20)…蕨山(11:45-12:35)…大ヨケノ頭(13:50)…金比羅神社跡(14:50-15:00)…さわらびの湯(15:45)

※岩菅山と源治郎沢が参加者不在及び参加者不足で中止となり、破風山が雨のため中止となりました。

ハイキング 報告

★第43回ふれあいハイキング（アプトの道）（10月18日）

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)
会員外(健常者3名)

トの道として復活した。今回は、そのアプトの道を横川駅から往復した。

横川駅から元気に出発。左手には碓氷峠鉄道文化むらがある。古い車両がたくさん並んでいて、入場しなくてもある程度楽しめる。

横川駅から軽井沢駅までの区間は明治26年に開通。急勾配を克服するため、ドイツのハルツ山鉄道で採用されていたアプト式を採用した。横川から軽井沢まで80分で走っていました。その後国産の蒸気機関車が採用されたが、それでも、連結できる車両は10両が限界。時速は9.6km。その後、輸送力と煤煙の問題から、日本で最も早く電化された。それも経済発展に追いつけず、新線が敷設され、アプト式の鉄道は昭和38年に廃線となった。



そんな歴史を持つ廃線跡が整備されてアプ



トロッコ列車の軌道の横を歩いて行くと、トロッコが止まっている。トロッコの運賃は300円。子どもたちに聞くと、「乗りた〜い」と大きな声で返ってくる。出発まで20分待ち。走行距離は2kmほど。歩いた方が早いですが、まあ記念に乗るか・・・ということで乗っていくことにする。

途中、旧丸山変電所で5分停車。トロッコ列車に乗ったら急がないことだ。終点のとうげのゆ駅で下車。ここから歩く。

道路の下を通り、北原白秋の歌碑を左に見て歩く。1号トンネル、2号トンネルと越えると、

碓氷湖に着く。ここで休憩する。紅葉したカエデが迎えてくれる。坂本ダムによってできた人造湖だが、湖面に周囲の山が映りきれいだ。

さらに3号、4号、5号とトンネルを通過していくと、めがね橋に出る。煉瓦造りの立派な橋梁だ。ここを過ぎて、さらにトンネルを通過する。トンネル内はひんやりして涼しい。



有名な眼鏡橋

10号トンネルを抜けたところが折り返し点の熊の平。茶屋などがあると思っていたが、何もなかった。ここは新線との合流点。別のト

ンネルから古い線路が延びている。テーブルや椅子があるので、ここで昼食タイムとする。Yさんは、ちょっと物足りないねと言う。のんびりハイキングだから今日はこの程度だね。

帰りはめがね橋の下に下りて、下からめがね橋を見してみる。煉瓦を積み上げて良くこんな橋を作ったものだと思う。

帰りは下りなのでみんな早い。帰り道から、裏妙義の丁須の頭がよく見えた。横川駅に着くと、デゴイチが入線していた。乗ってみたい気もするが、コストパフォーマンスを考えて、一般の電車に乗って帰ることにする。

記：網干

コースタイム

横川駅(9:20)…トロッコ列車乗り場(9:40-10:00)ー(トロッコ列車)ー峠の湯駅(10:20)…碓氷湖(10:35-10:55)…熊の平(11:40-12:25)…横川駅(14:10)

※高麗山ふれあいハイキングが雨のため中止となりました。

講習会報告

★岩登り技術講習会（日和田山）（9月13日）

参加者 会員(障害者1、健常者4名)

会員外(健常者2名)

調に登る。

昼食後は、男岩の南面を登る。ここも順調に登り、一番上のクラックも少し苦労しながらも全員がクリア。

今回は、岩登りが初体験の2人の参加があり、7人での実施となった。

岩場には多くの人に来ていて、ほとんどのルートが空いていなかった。それでもまずは女岩の南面を登ろうと行ってみると、今まで使っていたグループがこれで終わるというので、使わせてもらうことができた。

初体験の人、久しぶりの人も、3級ルート、その右にある4級程度の間接部のルートを、順



男岩南面右ルートに登るM君

まだ時間があるので、今日は南面右ルート



登ることにする。ここは4級+だが、ハング気

個人山行報告

★天狗山・男山(10月25日)

参加者 会員(健常者4名)

登山知識及び技術向上コースの源治郎沢が参加者不足で中止になったため、個人山行することになった。参加希望のメンバーを考慮して、昨年実施計画を取り消した天狗山から男山への縦走を行うこととした。

信濃川上駅からタクシーで馬越(まごい)峠へ向かう。車窓から岩山の天狗山が見える。迫力ある山容だ。

馬越峠でタクシーを降り、天狗山へ向かう。いきなり急登となる。落ち葉が岩の上に積もり、滑りやすいので注意が必要だ。傾斜が落ちてからも岩の道が続く。途中で右側が切れた岩場をトラバース気味に通過するところがあるが、ここが今回一番厳しいと感じた。視覚障害者の人たちと登る場合、ここが最も要注意だろう。

さらに行くと、新しいロープが張られている。小ピークから先を見ると親子連れが前を歩いている。夫婦と子どもが3人いたが、一番下の子は3歳という。ロープの張られた岩場をお父さんのサポートで元気に登っている。

慎重に岩場を登っていくと天狗山の山頂標識が見えた。そこはすばらしい展望だ。正面に

味のフェースが連続してあるので、クラックのルートよりも困難度は高く感じる。こちらは疲れの出してきた YK さん以外は、一部エスケープしながらも何とか登り切った。

今日は、7人の参加だったが、1人4本を登ることができて、それぞれ充実した気持ちを胸に帰ることができたようだ。帰り道、高麗川でカワセミを見ることができた。彼岸花も咲き始めていた。

記：網干

はこれから向かう男山が見え、その向こうにはハケ岳が多く峰を連ねている。南アルプスや浅間山が見え、浅間山とハケ岳の間には、遠く白い雪をかぶった北アルプスが見える。山名は分かりにくかったが、左側の山の奥に白く尖った山が見えるので、それが剣岳だと確認する。そうすると、その右にある3つほどの山は白馬三山だ。端牆山と金峰山も見えている。



天狗山で少し早い昼食を摂り、男山に向かう。最初から岩の道となる。北側の斜面はダケカンバの白い幹がいくつも並んでいて美しい。この下りは、それほど高度感はないが、左側を見ると、少し先から岩壁となって落ちているだろうことが想像できる。うっかりミスをしないように慎重に下る。かなり下って振り返ると、山頂からほぼ垂直に岩壁が落ちている。ここの岩

はチャートだということだ。見た感じでは、かなりごつごつしている。



天狗山山頂から見た男山とハケ岳

次々に現れる岩場を慎重に下って行く。ロープの垂れ下がった急な岩場を過ぎると、しばらく穏やかな道となる。カラマツ林の中を気持ちよく歩く。



岩場を下る

途中、北側の斜面を歩くところで、Oさんの大声が聞こえた。落ち葉に隠れたくぼみに足を乗せてバランスを崩したようだ。2mほど転がったが、ここは危険な場所ではないので、事なきを得た。ただ、頭を少し打ったようだ。



男山手前から天狗山を振り返る

せっかくヘルメットを持ってきたので、かぶっ

てもらふことにする。

その後も次々現れる岩場を通過する。展望の良い場所も何カ所もあり、端牆山の右手に富士山も見えるようになってきた。振り返ると、越えてきた天狗山も見える。男山も近づいてきた。



展望のすばらしい男山山頂にて

信濃川上への下山路を過ぎて、ロープの垂れた斜面を登っていくと、男山の山頂に到着した。ここは、天狗山以上に展望が良い。ハケ岳や南アルプス、浅間山、そして富士山、瑞牆山、金峰山、小川山、国師ヶ岳、北奥千丈岳、甲武信ヶ岳と見える。麓の高原野菜畑も美しく見える。



男山から見た端牆山と富士山

ゆっくり休憩して、下山にかかる。先ほどの分岐まで戻り、急斜面を下って行く。最初は非常に急な斜面だ。尻餅をついても良いが、転がらないように注意して下る。周囲はカラマツ林だ。すっかり紅葉している。

傾斜が落ちると林道になる。あとはぐんぐん下って行く。右後ろに登ってきた男山が高くそびえている。最後は車道を歩き、千曲川を渡る。左手は上流側。5月末に行った甲武信ヶ岳の下にある源流から流れ出た水がこんなに大きな

川となって、さらに流れていっている。傾いた秋の日差しが、うっすらと周囲の山々を染め始めた。

記：網干

コースタイム

馬越峠(10:15)…天狗山(11:05-11:35)…男山(13:20-13:50)…信濃川上駅(16:00)

その他事業報告

★臨時総会の開催予定

来年度の事業計画を決める臨時総会を下記の通り予定しています。

日時：平成28年1月16日(土)
14:00～15:00

場所：八千代台公民館 和室

議案書と詳細は追ってお知らせしますので、ぜひみなさまのご参加をお願いいたします。

☆活動紹介映写会&第10回自然と親しむ子ども山登り教室説明会

活動紹介映写会及び第10回自然と親しむ子ども山登り教室説明会を右記の通り予定しています。ぜひ都合を付けてご参加ください。

日時：平成28年2月27日(土)
14:00～16:00

場所：八千代市総合生涯学習プラザ
多目的ホール

▲「共に楽しむ」を八千代市立中央図書館に寄贈

八千代市役所コミュニティ推進課から依頼があり、今年新設された八千代市立中央図書館に2005年4月に発行された「共に楽しむ」(網干著)の寄贈依頼があり、寄贈させていた

だきました。この本は、愛知県で行われた「愛・地球博」のイベントとして、市民プロジェクト「アースデイ環境出版大賞」に応募するよう依頼があった際に著したものです。

各種連絡事項

☆来年度の登山計画原案を作成しました

今年は、若い人たちを中心に、登山計画原案を作成する委員会を立ち上げ、臨時総会で審議して頂く来年度の登山計画原案を作成しました。

登山計画の作成は、標高の高い山に登りたい意向を持つ人から低山しか登れない人、ゆっくりしか歩けない人、登山は無理という人まで、幅広い特徴のある人たちのニーズに応えるように各登山グレードの山をバランス良く選定すると共に、いろんな山域を季節に応じて、バランス良く計画することが必要です。さらに少

しメリハリを付けることも必要ですし、山に登るコースもできるだけ危険度の少ないコースを選定することを基本として、考える必要があります。

山仲間アルプの登山計画は、一般の山岳会とは違い、非常に幅広い技術や体力を持った人たちがいますので、それぞれのニーズに応えられるように考えて作ることが必要です。

今回の計画づくりをぜひ今後に生かしていただきたいと思います。

会 員 情 報

◎新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。（敬称略）

正会員

1名

未成年会員

1名

編 集 後 記

・理事長のつぶやき

ネパールの首都カトマンズに、宮沢賢治に共鳴して作られた私立の小学校があるそうです。

この小学校の校長先生ナンダ・プラサド・ウプレティ氏は、『長生きしていたら、賢治はきっと、第二の仏陀になっていた』とおっしゃり、また、『他者への奉仕や、自然を愛する心、賢治の精神は世界中に語り継がれるべきなのです』ともおっしゃっています。

「雨ニモマケズ」の中で、「慾ハナク 決シ

テ瞋ラズ イツモシツカニワラッテキル」と賢治は書いていますが、今の世の中は、さまざまな形で攻撃し合うことが多く、戦争状態が必ずどこかで発生しています。

「怒り」は「怒り」しか生まないですし、「否定」は「否定」しか生みません。自分と違う考えを認め、そこから何かを学ぶ気持ちを持っていたいと思います。

・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

